

展示ケース加工補助及び自主製作

実習期間 令和元年 9 月 9 日～9 月 21 日(10 日間)

実習先 細見工業株式会社

1. はじめに

細見工業株式会社は、博物館や美術館などの展示ケース、ディスプレイ金物を製作する会社である。社内には、設計事務所と工場があり、デザインプランニングから設計、製作、施工取付までの工程を一貫して行うことができる。

私の通う生産システム工学コースでは、上記のような製造プロセスと、それに関連する力学や生産管理などを勉強している。授業で学んでいる知識が企業ではどのような形で関わっているかを知りたいと思い、インターンシップを志望した。

以上を踏まえて、本実習では就業体験をすることにより自身の専門知識を深め、また企業で働く技術者としての考え方を学ぶことを目的とする。

2. 実習内容

2.1 自主制作(1～3 日目)

企業が行っているデザインから製造までのプロセスを体験するため、同時期に参加していた他校の実習生と協力しながら 3 日間でランプシェードの製作をした。

まず、自身が担当する面のデザインを決め、AutoCAD を用いて図面を描いた。その後、図面データをレーザー加工機に送り、鉄板を加工した。表面をやすりで磨きバリ取りをした後に組立、錆止め塗装を行い電球をつけてランプシェードが完成した(図 1)。



図 1 ランプシェード(完成)

2.2 塗装会社の見学(4 日目)

4 日目は、塗装会社へ部材引き取りの同行と、工場内の見学をさせていただいた。そこで塗装の手順や種類を学ぶことができた。

2.3 加工補助(5～10 日目)

工場内の機械や棚の錆取りと、実際にお客様に納品される展示ケースに用いる角パイプのバリ取りとシンナー拭きを行った。他にも、工場作業の中ではやすりのかけ方やノギスの扱い方、板材の寸法の種類や覚え方など現場で使う知識を教えてください、勉強になった。

また 9、10 日目は工場内作業と並行して事務作業も行った。

3. おわりに

インターンシップを通じて、作業を効率よく進めるための考え方や工夫、引継ぎの重要性を学ぶことができた。

実習序盤の自主制作や工場作業では作業が遅れがちだったが、単純化したり順序を変えたりする工夫を学んだ。8 日目には作業に習熟したこともあり、より効率よく進めることが出来た。

9、10 日目は事務作業と工場作業を交代で行った。引継ぎでは、これまで行った作業と引き継ぐ作業を相手に説明しなければならない。作業を円滑に進めるためには、簡潔に分かりやすく説明することが必要であると感じた。

今後技術者になる者としての知識や考え方をここで深めることが出来た。

4. 後輩へのアドバイス

この 10 日間で、学校生活ではできない様々な体験をさせていただきました。また企業で働いている方から直接お話が聞けるのも、インターンシップならではの思いです。卒業後の進路が決まっている、決まっていないにかかわらず、参加をお勧めします。